

## 鬼怒川・小貝川下流流域治水協議会（仮称） 議事概要

1. 日 時：令和2年8月4日（火）10:30～11:30
2. 会議形式：WEB会議（下館河川事務所3F 第三会議室）
3. 出席者：協議会構成員  
茨城県 土木部 河川課長 林 利家  
結城市長 小林 栄（代理：副市長 杉山 順彦）  
龍ヶ崎市長 中山 一生  
下妻市長 菊池 博  
常総市長 神達 岳志  
取手市長 藤井 信吾  
つくば市長 五十嵐 立青（代理：副市長 飯野 哲雄）  
守谷市長 松丸 修久（代理：副市長 田中 健）  
筑西市長 須藤 茂  
つくばみらい市長 小田川 浩  
八千代町長職務代理者 副町長 古宇田 信一  
国土交通省関東地方整備局 下館河川事務所長 工藤 美紀男

### 4. 議題

- (1) 設立趣旨について
- (2) 流域治水プロジェクトについて
- (3) 今後の進め方について
- (4) 協議会規約（案）について
- (5) 各自治体からのご意見

### 5. 議事概要

#### (1) 設立趣旨について

設立趣旨について読み上げ、構成員からの意見・質問が無いことから、（仮称）を削除し協議会が設立した

#### (2) 流域治水プロジェクトについて

資料2、資料3、資料4のポイントを説明し、特に意見・質問が無かった

#### (3) 今後の進め方について

資料5、資料6のポイントを説明し、特に意見・質問が無かった

#### (4) 協議会規約（案）について

規約（案）についてポイントを読み上げ、構成員からの意見・質問が無いことから、（案）を削除し、規約が本日付で施行された

#### (5) 各自治体からのご意見

- ・この協議会において水害リスクの増大に備えるための対策が取りまとめられ、国、県、市町等の協力により、防災の取組が一層進められればと考えている。
- ・都市化に伴い雨水流出量が増大している。
- ・流域に属する地方公共団体に出来ることの一つとして、河川への雨水の流出量を押さえていく取組を検討し実現したい。
- ・流出量低減を図る上では民間企業や個人の協力が必要であり、広く理解が得られるよう解りやすく大きな声でアナウンスしていくことが重要。
- ・人口増に伴い低平地に多くの方が居住しており、降雨の影響を受けやすい。
- ・雨の影響を受けるのは市町村境では無いことから、広域的に考えるべき。
- ・リアルタイムの情報は必要であり、タイムラインで教えて欲しい。
- ・「あらゆる関係者が協働して行う流域治水」の趣旨に賛同し、連携・協力させて頂く。
- ・堤防の幅が一部狭くなっている箇所についても、引き続き対応頂きたい。
- ・小貝川では樹木の繁茂箇所や狭隘部があるため、流下能力向上を引き続きお願いしたい。
- ・治水に携わるあらゆる関係機関が関わる枠組みが出来たことに大きな期待を持っている。
- ・自治体に対応する内水対策や検討している立地適正化計画について、指導・支援が欲しいと考えていたところ。
- ・自治体が抱える課題に対して、国からの支援や助力が頂けると期待している。
- ・河川と内水のピークが重なり被害が出ているため、河川増水時に対応する下水道計画の立案や幅広い補助採択について今後ご検討願いたい。
- ・河川管理者だけではなく流域に関わる関係者が協働して流域治水を推進することは意義があると思う。
- ・流域住民の安心・安全を確保するため共に協力したい。
- ・グリーンインフラや立地適正化計画、開発行為に関する指導要綱により宅地開発等、居住の誘導や雨水の流出抑制に取り組んでいるが、この協議会において計画的に推進されるよう期待している。
- ・洪水を河川内で安全に流すという施策が重要である一方、それだけで対応するには限界があることを痛感している。
- ・旧川跡や休耕田を活用した小規模な遊水地の整備なども有効な内水対策になるのではないか。
- ・流域内の降水量や水位、映像など各種情報の迅速な伝達と流域内へわかりやすく情報提供できる仕組みが必要。
- ・水害対応タイムラインの策定により、円滑かつ迅速な避難を確保し「逃げ遅れゼロ」を目指しているところ。
- ・未来に向けて新しい川と地域づくりに取り組む必要があると感じた。

- ・流域治水の推進により、流域全体の安心・安全が確保されるよう期待している。

以 上